

# 門司学 News

Vol.5

## 日本航空宇宙学会「第 57 回飛行機シンポジウム」に参加

【日 時】令和元年 10 月 16 日（水）

【場 所】山口県下関市 海峡メッセ下関

【参加者】高校 1 年生 6 名、高校 2 年生 22 名（計 28 名）

下関市で開催された「第 57 回飛行機シンポジウム」に、高校 1・2 年生の 28 名が参加しました。このシンポジウムは日本航空宇宙学会主催の航空機技術にかかる国内最大の学術講演会で、10/16～10/18 の 3 日間、海峡メッセ下関で行われました。本校生の参加は、日本航空宇宙学会初の「高校生招待企画」で実現しました。参加した生徒たちは、初日に行われた 3 つの特別講演を聴講しました。



講演会場へ移動する前に、小曳実行委員長、石井幹事、日本航空宇宙学会の河野理事（門司高校 54 回生）より、ごあいさつと本日の予定のご説明をいただきました。3 名とも JAXA（宇宙航空研究開発機構）にご勤務です。

控室から会場へ移動。みんな、緊張しています。



午前中は、60 分の講演が 2 本です。

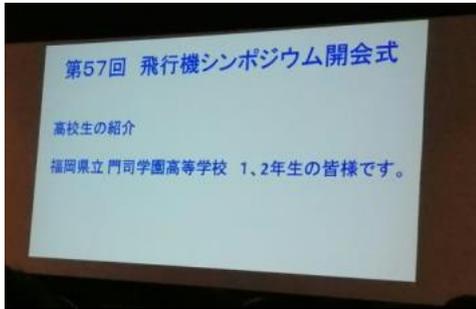
**特別講演 1 「無人航空機の研究開発動向と社会実装への取り組み」** 鈴木真二（東京大学）

**特別講演 2 「KARI Tiltrotor UAV Development and Technology Application to eVTOL」**

Jai Moo Kim (Korea Aerospace Research Institute)



特別講演の会場。400名ほど収容できます。  
本校は、最前列の特別席でした（緊張！）。



開会式で紹介していただきました。  
生徒全員で起立し、学会参加の皆様にご挨拶です。  
「未来の（宇宙航空機開発）同業者」と紹介され、温かい笑いと拍手で迎えていただきました。

特別講演 1 は鈴木先生による無人航空機の講演でした。

～ 生徒の感想 ～

「玩具だったドローンが、こんなに研究されているとは知らなかった。」  
「ロボットやAIが飛行機を操縦する時代がすぐにやって来そう。」  
「説明中の目配せやポインターでの示し方など、参考にしたい。」

特別講演 2 は All English (!) でした。生徒たちは英語を聞き取るのに必死で、居眠りする暇もありません。講演は写真や動画を用いた説明も多く、何となく理解できたようです。全員が英語学習の必要性を強く感じながら、昼食会場へ移動しました。

「少しだけ英語が聞き取れた。」  
「質問も英語で、すごい。」  
「この講演が一番面白かった。」



昼食後には、今回の参加をお世話してくださった河野先輩が、鈴木先生の特別講演 1 の「無人航空機」に関連したご自身の研究についてお話しくださいました。  
みんな、興味津々です。

午後は、60分の講演 1 本です。

特別講演 3 「将来の航空交通システムに関する長期ビジョン」 本江 信夫（国土交通省航空局）

「航空機の安全な運行のため、多くの機関が活動していることを初めて知った。」  
「こんな仕事をして人の役に立ちたい。」「興味があるので、イメージしやすかった。」

すべての講演が終わり、ほっとした表情で講演会場をあとにしました。



特別講演後は、企業展示ブースを見学しました。



企業の方も、高校生に分かりやすく説明してくださいました。ヘリコプターメーカー（川崎重工）のブースでは、社員の方々がヘリコプターの仕組みについて熱心に説明してくださいました。途中、一緒に説明を聞いていた元社員の小曳実行委員長も話に加わり、ヘリコプター研究の最前線の話をお聞きすることができました。生徒たちは、熱い研究者魂を感じたようです。



最後は、ゆめタワー前に移動し、河野先輩を囲んでの記念撮影。みんな、緊張が解けて笑顔です。



急な募集だったにもかかわらず、文系・理系を問わず多くの生徒が応募しました。応募理由は、「宇宙に興味がある」「航空機・機械に興味がある」「第一線で活躍する研究者の発表を聞きたい」「英語の講演を聞きたい」「文系の自分にとって一生縁のない分野なので参加したい」など様々です。しかし、どの生徒も熱心に聴講し、進路について何かを感じ取っている様子でした。

今回、飛行機シンポジウムへの生徒招待に際し、小曳実行委員長、石井幹事、津田委員をはじめとするシンポジウム実行委員会の皆様方、学会長や門司高校 OB の河野理事をはじめとする日本航空宇宙学会の皆様方には、たいへんお世話になりました。皆様方のご厚意に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。